

2018年度（平成30年度）事業活動報告書

法人の名称 特定非営利活動法人グリーンママ

1 事業の成果

（1）育児支援に関する事業

「みどりっこ親子の居場所はなまる」（以下はなまる）「緑区地域子育て支援拠点いっぽ」（以下いっぽ）の運営、『みどりっこカレンダー』『みどりっこひろば』を通じた子育てに関する情報の提供、緑スポーツセンター定期教室を中心とした一時託児等を行い一定の成果を上げた。

はなまるでは、年間の利用者数、一時預かり件数どちらも増加した。利用回数が多い人が増え、月間パスポートの利用者も増えた。はなまるを自身の居場所とし、ママボランティアに登録する人もいる。スタッフと利用者との距離が近くなり、プログラムなどにも利用者の声を取り入れた。

いっぽは、利用者数は昨年とほぼ同数だった。新規登録者数が減少していることから、リピート利用の人が多くなるのが見える。近年の傾向として、保育所入所者が増え拠点を利用する期間が短くなってきているが、この期間に集中して利用する人が増えている。短い期間を充実して過ごせるよう、早い月齢からの利用を促進するプログラムの実施など工夫した。今年度は利用者による活動が活発になった。活動の内容についても母親同士アイデアを出しあい、協力しながら準備をするなど主体的に動く場面が増えた。スタッフはそれをサポートする動きをするようこころがけた。また、今受託期間中間の振り返りを区と共にを行い、有識者による事業評価を受けた。講評では、拠点事業が、ひろば機能に相談、預かり（子育てサポートシステム）機能をプラスした多機能型である強みを意識した運営が求められた。拠点内での連携を強化し、引き続き子育て家庭の支援を行っていききたい。

（2）障がいのある子どもと親への支援事業

いっぽにて「気になる子のサロン」の開催、障がい理解講座の開催を行った。また、いっぽのサロン参加者からの希望を受け、はなまるでも「気になる子のママのほっとタイム」を定期開催し、母親同士が気軽に話すことができる場を増やした。

（3）児童及び青少年の健全育成にかかる事業

いっぽにて中学生・大学生のボランティアや看護学生の実習受入れを行い、これから親になる学生が乳幼児とふれあえる機会を提供した。

2 事業内容

（1）育児支援に関する事業

①「みどりっこ親子の居場所はなまる」の運営

実施日時	月～金曜日 午前9時30分～午後4時30分 土曜日（月1回）午前9時30分～午後2時30分
実施場所	みどりっこ親子の居場所はなまる
従事者	2人/1日
対象	緑区及び近隣在住の未就学児とその保護者（おもに0～3歳児）
支出額	8,523,240円
事業実績	<ひろば> 年間利用者数（大人・子ども）：5,057人（4,448人） （ ）内数値は 前年度実績 一日当たりの平均利用者数：20.0人（18.0人） 新規登録組数：170組（199組） <一時預かり> のべ預かり児童数：225人（207人） 総利用時間数：744時間（649時間）

【1年間の報告】

- ・2017年度に利用者の声から実施した「あかちゃんと楽しもう！」、「栄養士さんのいる日」が好評だったため今年度は定期開催した。不安や悩みを解消するための場になっている。

- ・出産を控えた人向けのプログラム「マタニティタイム」に参加した人が出産後もひろばを利用し、出産後の情報交換や気持ちを共感し合う場となっている。
- ・「おしゃべりタイム」では毎月のテーマを基におしゃべりをしている。テーマ“きょうだい育児について”が好評で、同じテーマで複数回開催した。
- ・区の保健師による利用者向け講座「こんな時どうことばをかける？～ことばの育て方やママの気持ちを上手に伝えるには」をひろばにて開催。親の不安解消につながった。
- ・助産師による「卒乳のはなし」を開催。自身の体やライフスタイルにあわせて選択できるよう、母乳育児を続ける方法と卒乳する方法の両面から話してもらった。
- ・新しく立ち上がった地域のサークルが会議室を話し合いの場所として利用している。今後も活動の協力をしながら、交流を深めていきたい。
- ・一時預かり利用者の割合は2歳児（43%）1歳児（31%）で全体の7割強を占めている。預かりの理由はリフレッシュ（41%）・きょうだい児の用事（22%）が多い。

②「緑区地域子育て支援拠点いっぽ」の運営

- ア. 「親子の居場所事業」「子育て相談事業」「情報収集・提供事業」「ネットワーク事業」「人材育成・活動支援事業」「利用者支援事業」

実施日時	火～土曜日 午前9時～午後5時
実施場所	緑区地域子育て支援拠点いっぽ
従事者	7人/1日
対象	緑区及び近隣在住の未就学児とその保護者、子育て支援に関わる人
支出額	29,744,029円
事業実績 ()内数値は 前年度実績	年間利用者数（大人・子ども）：23,432人（23,409人） 一日当たりの平均利用者数：97.2人（96.7人） 累計登録者数（子ども）：4,930人（5,004人） 30年度新規登録者数（子ども）：805人（854人） 新規ボランティア登録人70（29人）うち利用者63人（15人） 年間ボランティア活動者数 112人（95人） 利用者支援事業相談件数 280件（282件）

【1年間の報告】

- ・高齢者との交流を行うグループや、編み物グループが立ち上がり、母親が活動できる機会が増えた。活動内容も自由度を高め、自主的な動きにつながっている。また、利用者発案のテーマでひろばで話しをする「mamaのしゃべりば」を開催し（発案者14名、19回開催、大人139名参加）、利用者自らが動き、希望を実現できる場を作った。
- ・「mamaのしゃべりば」のテーマには、ひとり親や、ろうの母親からの発案もあり、多様な養育者の利用のしやすさにつながった。
- ・リニューアルしたホームページ内の、地域施設への訪問記更新や、ほぼ毎日のブログ更新を通して、情報提供・発信を行った。
- ・利用者支援事業では、事業開始から3年が過ぎ、「子育てパートナー」の周知も進んできた。区内3か所のつどいのひろばへの訪問も回数を増やし、それぞれの地区での出張相談の場とともに、つどいのひろばスタッフとの情報交換から地区の様子を知る機会となった。今後のアウトリーチにつなげていきたい。

イ.「横浜子育てサポートシステム」緑区支部運営

実施日時	火～土曜日 午前9時～午後5時
実施場所	緑区地域子育て支援拠点いっぽ
従事者	3人/1日
対象	横浜市在住の0歳から小学生とその保護者、子育て支援に関わる人
支出額	8,775,896円
事業実績 ()内数値は 前年度実績	会員数：利用会員673人（634人） 提供両方会員252人（237人） 30年度入会者数：利用会員188人（181人） 提供両方会員31人（16人） コーディネート件数：268件（217件）

事業実績 ()内数値は 前年度実績	実働会員数：利用会員のべ924人(972人) 提供・両方会員のべ768人(784人) 活動件数：5,163件(5,670件) 入会説明会：40回実施239人参加 〈うち利用会員179人・提供・両方会員60人〉(34回199人) 個別説明：91人参加〈利用会員83人 提供・両方会員8人〉(81人) フォローアップ研修：9/7・8 43人参加 交流会：7/5 7人参加 11/28 9人参加 1/29 9人参加 子育てサポート通信：3回発行 「いっぽ保育隊」：活動件数76件(52件) のべ活動者139人(179人) 保育子ども538人(324人)
--------------------------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

【1年間の報告】

- ・横浜子育てサポートシステムを広く区民に周知するために、緑区広報の一面で特集記事を掲載してもらった結果、入会説明会の参加者が2割増えた。またサポート活動の担い手である提供・両方会員の会員登録が昨年度の16名から31名と倍増した。
- ・コーディネーターがひろばに出る際に、「子育てサポートシステム」の名入りのエプロンを着用することで、入会説明会の申込みやひろば預かりの相談を受ける機会が増えた。
- ・ひろばスタッフや子育てパートナーと必要に応じて情報交換、連携しながら利用会員が利用しやすいコーディネートを中心利用につなげることが出来た。
- ・子育て支援者会場や赤ちゃん教室等地域に出向き、拠点とサポートの周知をすることで利用と支援の両方へ声掛けをすることが出来た。
- ・提供会員の高齢化が進み、退会や活動の休止を希望する会員が増えてコーディネート依頼に対応できる会員の調整が難しくなりつつある。早急に提供会員を増員できるように周知の方法などを検討して行きたい。

③子育てに関する情報の発信・提供

実施日時	通年
実施場所	緑区地域子育て支援拠点いっぽ
従事者	4人
対象	緑区および近隣の未就学児とその保護者
支出額	1,420,481円
事業実績	『みどりっ子カレンダー』：毎月1000部発行、掲載園27園、配布先45か所 『みどりっこひろば』：随時情報更新 『みどりっこひろば』メールマガジン：毎月発行504人登録(前年度431人) 『みどり子育て応援ガイドブック』改訂版編集

【1年間の報告】

- ・区内の保育施設の地域開放事業を紹介する『みどりっ子カレンダー』では、今年度も掲載園が増え、保育園22園、幼稚園5園となった。
- ・インターネットで区内の子育て情報を提供している『みどりっこひろば』では、イベントカレンダーの掲載件数が増えている。
- ・緑区が発行する『みどり子育て応援ガイドブック』の改訂版の編集を行った。

④集団出張保育

実施日時	通年
実施場所	緑スポーツセンターほか
従事者	登録スタッフ26人
対象	緑区および近隣区の子育て中の保護者とその子ども
支出額	199,974円
事業実績	定期託児：43回実施、保育した子どものべ116人、スタッフのべ88人 (前年度41回 保育子どものべ106人 スタッフのべ93人) 出張保育：7回実施、保育した子どものべ18人、スタッフのべ15人 (前年度9回 保育子どものべ33人 スタッフのべ32人) お話し会：コスモスフェスタ出演

【1年間の報告】

- ・緑スポーツセンターの定期教室は、実施回数は同じだが、保育希望者がある講座が一講座と減ったので、保育する時間が短くなった。
- ・国際交流団体「オリーブみどり」から講座時の保育を受けた。いっぽを利用する外国人の母親へ講座を案内し参加を促し、当日の保育も担当した。
- ・法人として緊急救命講習を開催した。研修として、保育登録スタッフも17名参加した。

⑤地域に向けた子育て支援の促進事業

実施日時	通年
実施場所	緑区地域子育て支援拠点いっぽほか
従事者	3人
対象	緑区および近隣区の子育て中の保護者とその子ども
支出額	322,003円

【1年間の報告】

- ・緑区子ども家庭支援課より「赤ちゃん教室」の運営を受託し、会の進行や情報提供を担当している。今年度からは、中山会場に加えて新たに長津田会場も担当している。
- ・地域の連絡会等に参加し、区内で子育て支援を行う法人として、子育て家庭の現状を伝え、理解をすすめている。また、様々なジャンルの他団体との連携を図り、法人が行うそれぞれの事業をより充実したものにつなげている。

<参加している緑区内の委員会・団体等>

- 「緑区要保護児童対策地域協議会」いっぽ、はなまるともに参加
- 「緑区防災ネットワーク運営委員会」(松岡美子)
- 「十日市場中学校地域交流事業実行委員会」世話人(松岡美子)
- 「十日市場こどもの居場所作り検討委員会」(松岡美子)(新)
- 「よこはま次世代地域交流型住宅整備運営事業者選定委員」(松岡美子)(新)
- 「緑区地域施設間連携会議」(松岡美子)
- 「緑区生活困窮者自立支援制度定例支援調整会議」(松岡美子)
- 「緑区次世代育成を語る会」(松岡美子)
- 「十日市場施設間連携会議」(松岡美子)
- 「みどり障がい児者ネットワーク」幹事(松岡美子)
- 「横浜創英大学研究倫理審査委員会委員」(松岡美子)
- 「緑区市民活動支援センター運営委員会」(松浦千恵)
- 「子育てひろば全国連絡協議会」正会員
- 「十日市場自治会」特別会員
- 「新治西部地区社会福祉協議会」会員
- 「緑区社会福祉協議会NPO等分科会」参加

<市域の活動>

- 「横浜市市民協働推進委員会」委員(松岡美子)
- 「横浜市地域子育て支援拠点ネットワーク」(松岡美子)
- 「よこはま一万人子育てフォーラム」(松岡美子)

(2) 障がいのある子どもと親への支援事業

実施日時	通年
実施場所	緑区地域子育て支援拠点いっぽ、みどりっこ親子の居場所はなまる
従事者	4人
対象	緑区および近隣の未就学児及び小学生とその保護者、子育て支援に関わる人
支出額	51,070円
事業実績	気になる子のサロン 年間14回実施178人(大人101人・子ども77人)参加(ミニ講座・イベント含む)(前年度12回実施・133人参加) 気になる子のママのほっとタイム 年間12回実施55人(大人29人・子ども26人)参加(前年度3回実施・15人参加) 障がい理解講座 2/15開催 参加者45人

【1年間の報告】

- いっぽにて、毎月「気になる子のサロン」を実施。子どもの発達に不安や心配のある保護者同士が、肩の力を抜いて話ができる場となっている。乳幼児期から青年期までの子どもを持つ保護者が参加。参加していた親が先輩として話しを聞いたり、情報交換できる場ともなっている。
- はなまるにて前年度後期から行っている「気になる子のママのほっとタイム」は、利用者の要望で始まった。親の不安を吐き出したり、利用者同士で情報交換や制度等の相談をしよう場となった。継続して参加する人が先輩ママの立場で発言する場面もある。次年度はプログラム内でテーマを決めた日も設けていきたい。
- 「障がい理解講座」として「発達障害の子の立ち直り力（レジリエンス）を育てるには」講師：日戸由刈さん（相模女子大学人間社会学部教授）を開催した。

(3) 児童及び青少年の健全育成にかかる事業

実施日時	通年
実施場所	緑区地域子育て支援拠点いっぽほか
従事者	3人
対象	地域の中中学生・高校生、福祉・子育て関連職に就く者
支出額	0円
事業実績	中学生ボランティア 31人 高校生ボランティア 2人 大学生ボランティア 1人 学生ボランティアのべ活動人数 132人 インターンシップ受入れ 8人 大学生実習受入れ 29人

【1年間の報告】

- 中学生・高校生・大学生のボランティアを受入れ、乳幼児とのふれあいを通して青少年の健全育成につなげた。
- 「十日市場中学校地域交流事業」に参加し、近隣にある中学校との交流を盛んにし、ボランティアや職業体験の場としての受入れを行った。
- 十日市場中学校1年生と霧が丘学園8年生への職業講話「NPO法人グリーンママによる地域子育て支援」を行い、子育て支援の必要性の理解へにつなげた。
- 玉川大学教育学部インターンシップ、看護学校（横浜創英大学、横浜実践看護専門学校）「母性看護実習」、桜美林大学大学院健康心理現場実習を受入れを通して、子育ての実際を間近で見ることで将来の自身の子育てについて考える機会を提供している。